

人権まちづくり新聞

第6号
編集発行
枚方人権
まちづくり協会

朗読劇「おせいさんの昭和」を上演

協会自主事業 メセナ枚方で言葉座が熱演

三月一八日、メセナ枚方で当協会と枚方市の共催で、劇団言葉座（ことわざ）による田辺聖子さんの著作を基にした朗読劇「おせいさんの昭和」が上演されました。

一場から五場では、出演者が昭和の身なりで登場。田辺さんの著作「おせいとカモカの昭和愛惜」等から抜粋された心地よい大阪弁のセリフに、会場はほ満杯

の参加者は、当時の大阪の世相に浸っていました。六場では、「文車日記」から鴨長明の方丈記の「ゆく川の流れ」が読まれ、長明の生きた時代もまた戦乱の世であったことが紹介されました。最後の七場「欲しがりません勝つまでは」は、おせいさんの空襲体験。電車も不通になり歩いて家に帰る時、やってきたトラックに、友人が「この人を利用してあげて」と声をかけたが、トラックの兵隊は物も言わず手を横に振るだけ。去ってしまい、ふと荷台をみると死骸の山だったというセリフが胸に迫りました。



劇は、あとがきの一節「死者は黙して語らない、私たちは彼らのことをもつとよ

く知ってやらねばならない。若い人たちに私が語り継ぐことが私の戦争である」で結ばれ、参加者が「戦争は人権を無視する」ことを考えさせられた朗読劇でした。

シニア人権な街角

増えてほしい多言語表示

昨年度の訪日外国人数は一九七三万人で、過去最高でした。また、枚方市で住民登録している外国人は約四〇〇〇人で、いまや市民

の百人に一人が外国籍なのです。こうした傾向は今後もますます増えていくものと考えられます。

しかし、枚方市の街角は外国人にとって、決して暮らしやすいものにはなっていないようです。英語や中国語、ハングルなどによる表記はほとんど見かけません。

そのような中で、昨今京阪電車の駅校内で、トイレが多

大阪市では、地下鉄などでホームの掲示板に列車の行先などが多言語で表示されます。枚方市でも、もっと多くの場所が多言語表示が拡がるのが望まれます。日本では「郷に入れば郷に従え」という考え方も根強いですが、外国人が暮らしやすい街は市民にとつても暮らしやすいと言えます。



こんなことやってます

枚方人権まちづくり協会

<p>〈人権まちづくり協会〉 TEL 072-844-8788（「福祉なんでも相談」を除く） [人権なんでも相談] 月～金/9時～17時半 [地域就労支援相談] 月～水/金 9時～17時半（要予約） [進路選択支援相談] 火曜日（要予約） 13時～17時/18時～20時 [福祉なんでも相談] 月～金/9時～17時半 専用TEL 072-844-8866</p>	<p>〈男女共生フロアウィル〉 以下、利用は女性のみ [電話相談] 月10時-12時/13時-17時 木13時-16時/17時-21時 専用TEL 072-843-7860 [生き方相談(要予約)] 水 13時-21時 金 10時-17時 TEL 072-843-5636 [法律相談(要予約)] 第2金/第3木/第4土 13時-16時 第1金 17時-20時 TEL 072-843-5636</p>
---	---

枚方市岡東町12-1-502 サンプラザ1号館5階

ハンセン病問題啓発事業

「ふたたび～SWING ME AGAIN」を上映

200人以上の市民が参加



枚方市が「平和の燈火（あかり）」



3月11日、岡東中央公園で枚方市の「平和の燈火」が行われ、多くの市民が参加しました。

紹介します

人権なんでも相談

ますます多様化し、複雑になる市民社会ですが、「これって人権問題と違うかな?」「困ったなあ、どうしよう」—毎日の生活の中で、こんな思いを持たれたことはありませんか。

NPO法人枚方人権まちづくり協会では、市民のこんな悩みや困りごとに対する相談活動として、「人権なんでも相談」を行っています。

「とにかく聴いてほしい」「どこに相談したらいいか教えてほしい」など、どんなことでも結構ですから相談してください。曜日によって3人の相談員が交代で担当していますが、いずれも、まず相談者のお話をじっくり聴くこと、相談者の思いを受けとめること、事案によって「弁護士相談」や「支援センター」など適切な相談機関を紹介することなどに努めています。

もちろん、相談された方の個人情報は厳守しますので、安心して相談してみてください。

人権なんでも相談員 磯野 雅治
松宮 一美
伏見 俊昭

<相談事業>

月曜日～金曜日 AM9:00～PM5:30

電話 072-844-8788 (枚方人権まちづくり協会内)

二月二五日、メセナひらかた会館で枚方市と枚方人権まちづくり協会の共催で、ハンセン病問題啓発事業として「ふたたび」の上映会が行われ、会場をいっぱいにする二〇〇人以上の市民が参加しました。

映画は、神戸を舞台に、ハンセン病によって五〇年以上の隔離生活を強いられ、いた主人公が、かつてのバンド仲間を訊ねて、何も言えないまま姿を消したことを謝り、当時の願いであったジャズクラブ「ソネ」での演奏を実現するという物語を描いたもの。(写真は一シーン)

渡辺貞夫氏が出演するなど豪華なキャスト陣で、しっかりとした中にも、昨今の「被害者バッシング」に通じる発言をビシッと批判するシーンもあり、参加者は大いに感動させられました。

会員随時募集

枚方市を市民一人ひとりの人権が大切にされる街へ。あなたも会員に。

NPO法人枚方人権まちづくり協会
(TEL: 072-844-8788)